

Q&A 先月の技術相談から

ラクヨウキノコの種菌を購入したいのですが？

Q： 自分の山（カラマツ林）を持っているので、ラクヨウキノコを栽培しようと思っています。ラクヨウキノコの種菌を購入したいのですが、どこで売っていますか？

A： 残念ながら、ラクヨウキノコは人工栽培が出来ません。そのため、種菌も販売されていません。

ラクヨウキノコ（または、ラクヨウ）とは北海道の地方名で、標準和名「ハナイグチ」というきのこです。ハナイグチ（写真1）は、傘の色が黄褐色や橙褐色で粘性があり、傘の裏には管孔と呼ばれる微小な孔がたくさんあり、スポンジのようです。ぬめりを生かした汁物やなべ物、つくだ煮など和風料理によく合います。

ハナイグチは、北海道にたくさん植えられているカラマツの下（林床）に発生します。これは、ハナイグチの菌糸がカラマツの細根と「菌根（きんこん）」と呼ばれる共生体を形成して、養分等をやりとりするためです。このように植物（樹木）と菌根を作って共生しているきのこは、「菌根菌（きんこんきん）」または「菌根性きのこ」と呼ばれ、まだ人工栽培はほとんどできません。



写真1 カラマツ林の林床に発生するハナイグチ

菌根性きのこの仲間には、マツタケやトリュフ、ポルチーニなど、おいしくて高価なきのこがあります。「香りマツタケ味シメジ」と言われるホンシメジも菌根性きのこですが、1993年に滋賀県森林センターで栽培方法が開発されました。この特許が99年に開放されたことで、2004年から民間企業での生産が始まりました。

林産試験場では、2006年から道内企業との共同研究でホンシメジ栽培技術の改良に取り組み、現在は新品種の開発を進めています。

ハナイグチは道内で人気が高く、札幌市場では高価格で取引されています。ホンシメジのような人工栽培はまだできませんが、カラマツ林を管理することで持続的にきのこを収穫することは可能です。道内には、実際に自分のカラマツ林を適切に管理して20年以上もハナイグチを生産している名人もいらっしゃいます（写真2）。



写真2 カラマツ林整備の様子

なお、ハナイグチが発生していないカラマツ林でも孢子（子実体の粉碎物）を散布して、きのこを発生させる方法が提案されており、山梨県や長野県でその効果が確認されています。道内でも同様の試験を行ったことがあるようですが、詳しい報告が無いため具体的な方法やその効果は分かっていません。

参考

1) 宜寿次盛生, 菌根性きのこホンシメジの菌床栽培～北海道産ホンシメジ開発に向けた栽培特性の検討～, 林産試だより 2009年12月号.

<http://www.fpri.hro.or.jp/dayori/0912/1.htm>

2) 柴田 尚, ハナイグチ, キノコ栽培全科 大森清寿・小出博志 編, pp234-236 (2001).

(利用部 微生物グループ 宜寿次盛生)